

糖尿病・禁煙・口腔がん

WEB開催

参加料無料

配信期間

令和4年3月1日(火)～31日(木)
(2022年)

講演時間

各講演 約30分

講演

糖尿病予防フォーラム

演題: 歯周病と糖尿病の深～い関係

日本大学歯学部 歯周病学講座 教授 佐藤 秀一 先生



禁煙支援フォーラム

演題: ウイズコロナ時代の禁煙支援

日本大学歯学部 歯周病学講座 准教授 菅野 直之 先生



口腔がんフォーラム

演題: 口腔がん治療後の困ったを解消
特殊な入れ歯で話して食べて飲めるまでを
サポートします!

日本大学歯学部 歯科補綴学第Ⅱ講座 診療准教授 大山 哲生 先生



お申込み・お問い合わせ先

本フォーラムは、パソコン、タブレット、スマートフォンでご視聴いただけます。
当日の視聴には事前登録が必要となります。下記URLまたは
二次元バーコードよりアクセスし、申込フォームに必要事項を
ご入力の上、お申し込みください。

<https://j-entry.gostream.jp/entry/seminars/view/q1X0ePccyj>

公益社団法人 東京都歯科医師会・地域保健課
電話: 03-3262-1148 (受付時間: 平日10～16時(土日祝は休み))



主催 / 公益社団法人 東京都歯科医師会
<https://www.tokyo-da.org/>



歯周病と糖尿病の深～い関係

講演要旨



日本大学歯学部 歯周病学講座 教授 佐藤 秀一

歯周病は放置しておく、やがて歯が抜け落ちてしまう怖い病気です。日本人の働き盛りの中高年の7割以上が罹っている国民病でもあることが広く知られています。一方、糖尿病の患者も国内では1,000万人以上いると報告されています。糖尿病は放置すると腎症、脳梗塞や狭心症などの命にも係わる病気に進行していきます。そして、歯周病も糖尿病も治療せずにそのまま放置している人がたくさんいることが社会問題になっています。

最近、歯周病はお口の中だけではなく、全身のさまざまな病気と深く関わっていることがわかってきました。そのなかでも「糖尿病の第6の合併症は歯周病」であることが認知され、両方の病気はお互いに深い関

係があることがこれまでの多くの研究によって明らかにされてきました。実際、糖尿病の人が歯周病に罹っている割合は非常に高く、また、歯周病に罹っている人では糖尿病が悪化しやすくなります。どちらの病気も普段の日常生活と深い関係がある生活習慣病です。

本講演では、歯周病と糖尿病の深い関係について、できるだけわかりやすく解説したいと思います。また、歯周病と全身の病気についての関係や歯周病の治療を受けることで、全身の健康回復につながることなどについてもお話ししたいと思います。今回の講演が皆様の健康増進に少しでもお役立っていただければ幸いです。

略歴

- 1988年 日本大学歯学部 卒業
- 2004年 日本大学 専任講師 (歯学部保存学教室歯周病学講座)
- 2006年 ミシガン大学歯学部 歯周病学講座 留学
- 2013年 日本大学 准教授 (歯学部保存学教室歯周病学講座)
- 2015年 日本大学 教授 (歯学部保存学教室歯周病学講座)
- 2021年 日本大学歯学部付属歯科病院 副病院長

専門医・指導医・学会活動

- 日本歯周病学会 専門医 (指導医)
- 日本歯科保存学会 専門医 (指導医)
- 日本歯周病学会 常任理事
- 日本歯科保存学会 理事

ウィズコロナ時代の禁煙支援

講演要旨



日本大学歯学部 歯周病学講座 准教授 **菅野 直之**

喫煙者の割合は2割ほどから下げ止まっています、若い人を中心に加熱式たばこが広まり、販売側のイメージ戦略が強まっています。たばこの値上げも何回も行われてはいますが、喫煙者がやめようと思う1箱1,000円にはまだまだ届きません。これは国民の健康ではなく、たばこ産業を守るために作られたたばこ事業法が原因です。昨年開催された東京オリンピックがきっかけで健康増進法が改正され、2020年4月からは飲食店も原則屋内禁煙となりましたが、例外が広く認められ骨抜きです。そして、新型コロナウイルス感染症では喫煙者が重症化しやすいとの報告が増え、3密対策で喫煙所の閉鎖も見られます。このような背景からも禁煙への働きかけは喫緊の課題です。

通院者率の高い病気の中で歯の病気は男性3位、女性4位と定期的に歯科医院に通う患者さんも多いことから、歯科医院での禁煙支援が徹底できれば、その影響力は大きいと考えられています。来院した喫煙患者さんに治療の中でたばこの影響に気づいてもらう、少しでも禁煙の意識をもってもらうだけでも、多くの喫煙者は禁煙に対する無関心期から関心期、そして禁煙準備期へとステップアップできます。そして、禁煙を達成した後も歯科医院に定期的に通院することで禁煙の継続を維持することもできます。今回のフォーラムの中で、歯科医院での禁煙支援に興味を持っていただき、喫煙者自身あるいは周囲の喫煙者の方の禁煙のきっかけを掴んでいただければ幸いです。

略歴

1988年 日本大学歯学部 卒業
1992年 日本大学大学院歯学研究科 修了
同 年 日本大学 助手
1994年 米国スクリプス研究所 研究員
↓
1997年
2001年 日本大学 講師
2004年 日本大学 助教授 (歯学部歯周病学講座)

専門医・指導医・学会活動

日本歯周病学会 専門医
日本歯科保存学会 専門医
日本抗加齢医学会 専門医
日本禁煙学会 禁煙専門指導者

口腔がん治療後の困ったを解消

特殊な入れ歯で話して食べて飲めるまでをサポートします！

講演要旨



日本大学歯学部 歯科補綴学第Ⅱ講座 診療准教授 **大山 哲生**

口内炎がなかなか治らなくて、“がんかも？”と不安になったことがある方は多いと思います。近年は2人に1人はがんに罹患し、口腔内のがんは全体の1%程度で年間8,000人程度と言われています。しかし、残念ながら目に見える部位の粘膜に症状が出現することが多いのにも関わらず、進行した状態で発見されることも多いのが現状です。早めの歯科への受診により早期発見早期治療が、がんからの生還の為には重要な言うまでもありません。ただ、早期に治療したとしても外科手術等のがん治療で、話す・食べる・飲む等の機能が損なわれ、生活の質が低下してしまうことがあります。例えば、上顎^{あご}の手術により生命の危機は回

避できたとしても、口と鼻が腫瘍切除によって繋がってしまったり、食べたり飲んだり話したりがかなり困難になってしまいます。せっかく辛い思いをして手術に臨んで命を繋いだとしても、その後の生活が楽しめないとしたら非常に残念です。そのような場合には、話して食べて飲むことをサポートする、口腔内に開いた孔を塞ぐ装置付きの特殊な入れ歯治療が非常に効果的です。本フォーラムは、がん治療後の困ったを解消する特殊な入れ歯をご紹介しますことで、皆様が明るく楽しかった昔の生活を取り戻すための受診のきっかけとなれば幸いと思っております。

略歴

- 1991年 日本大学歯学部 卒業
- 1995年 日本大学大学院歯学研究科歯科臨床系 修了
- 1999年 日本大学 助手 (歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座)
- 2007年 日本大学 専任講師 (歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座)
- 2009年 Visiting Professor UCLA School of Dentistry
Maxillofacial Prosthetics Residency Program
- 2011年 日本大学歯学部 診療准教授 (歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座)
現在に至る

専門医・指導医・学会活動

- 日本補綴歯科学会 代議員、指導医、専門医
- 日本顎顔面補綴学会 理事、代議員、認定医
- 日本磁気歯科学会 理事、認定医